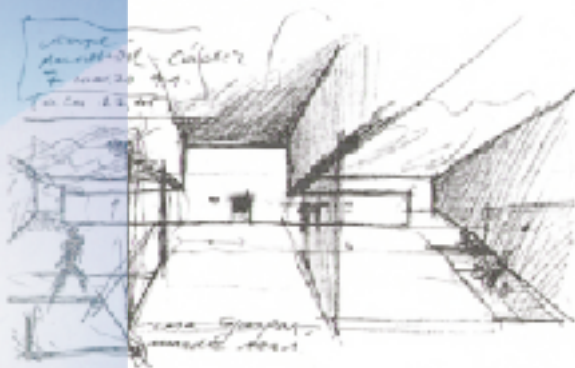


スペイン・モダニズム建築のアウトサイダー？ アルベルト・カンポ・バエサ



金属を始め、新しい質感の素材をふんだんに使ってデザイン優先の建築を造りだそうとする動きが台頭しているなかで、必要最低限のエレメントしか取り入れないアルベルト・カンポ・バエサの建築哲学とそのアプローチはいささか古くさく感じてしまうかもしれない。

アフリカに近いアンダルシア地方のバナキュラー（土着的）な建築からの影響も色濃い彼の建物は、直線を多く使った、基本がシンプルでさっぱりとした外観のものが多い。内部はというと、トップからの採光を重視し外からは全く想像がつかない光が精巧に作られており、直射光とバウンス光のミックスが幾何学的にデザインされた空間を陰影で絶妙に演出している。

最近の奇抜でアグレッシブな現代建築の全く対極にあると言ってもいい彼の建築は人と環境への温もりやさしさが伝わってくる。本拠地マドリードを中心に、個人宅だけでなく公共施設の設計も数多く手掛ける。

focus

++いま注目したいヒトやモノ++

アナ・ムグラリス Anna Mougllalis

1978年フランスのナントで生まれる。1994年にパリの高校へ入学、その後女優を目指して、国立演劇学院で勉強する。

いくつかの演劇舞台を経験し、クロード・シャブロール監督作品で、イザベル・ユベールと共演したサイコ・スリラー『MERCI POUR LE CHOCOLAT』で若いピアニスト、ジャンスを演じ、国際的な注目を集めた。

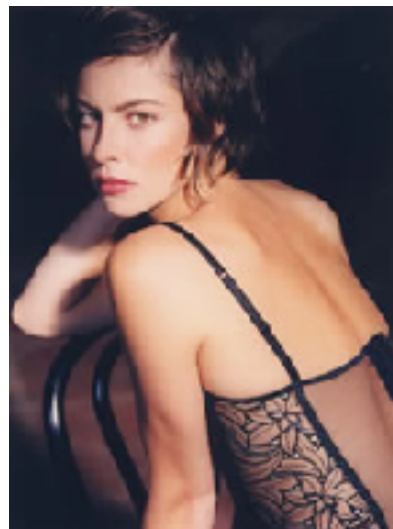
2002年には、ジョニー・デップの妻としても有名な歌手、女優のパネッサ・パラディに続きCHANELのイメージガールとしてカール・ラガーフェルドに指名される。

アナ・ムグラリスは女優としてもますます成長し、意欲的に作家主義の

映画に取り組む。2002年には東京を舞台した日仏合作『TOKYO EYES』(98)を撮ったジャン・ピエール・リモザン監督作品『NOVO』を含む3本の長編映画に出演する。

2003年、主演したアルノー・デプレッション監督の『En jouant dans la campagne des hommes』がカンヌ映画祭の“ある視点部門”に出品される。そして女優・モデルだけにはとどまらず、歌手として初アルバムも出す。今年のカンヌ映画祭の“15人の監督週間”にセレクションされた『En attendant le Déluge』でも主演を演じ、彼女の存在はカンヌ映画祭でも既にお馴染みになってきているようだ。

美貌と演技力を両方持ち合わせた新しいスターにフランスはいま注目している。



ラ・ヴィレット、他のお問い合わせは下記までご連絡下さい。



◇東京（担当:水田 章）

株式会社ミストラルジャパン
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-27-5カザマビル
tel: 03-3479-7472 fax: 03-3479-7436
cm@mistral-japan.co.jp
http://www.mistral-japan.co.jp

◇パリ（担当:ブルジオ幸江・フィオーレ明德）

MISTRAL FILM
34, rue Sébastien Mercier 75015 Paris
tel: (33) (1) 45 77 57 10 fax: (33) (1) 45 77 12 18
info@mistralfilms.fr
http://www.mistralfilms.fr